碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

3年1月現在会員数	
逗子地区	167名
葉山地区	258名
大船地区	47名
（合計）	（472名）

3年1月号（222号）
発行者
根岸岳萃
編集者
中村愛岳

新年のごあいさつ

会長　根岸岳萃

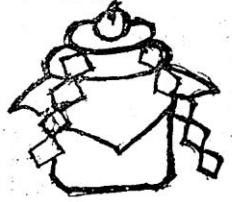
碩心会の皆さんが、ご家族共々良い新春を迎えられましたこと、衷心よりお慶び申し上げます。碩心会も発展しつつ、平成三年の新春を迎えることの出来ましたことは、皆さんの御協力の成果で感謝に堪えません。

本年も亦、総本部、県本部と行事も色々予定されておりますが、皆さんが楽しく吟道に精進されますようお願い致します。

国際的にはペルシャ湾沿岸、貿易自由化等、諸問題が山積しているようですが、国内では、まだまだ金余り現象と、贅沢な生活で、精神文化は欠如しているアンバランス状態です。我等吟道家は、吟道を通じて社会の浄化をはかり、祖国の文化の向上と安定を図ることが大切であると思います。

高齢化は自然の推移、このような時にこそ健康に注意して、楽しく生活することこそ大切でしょう。

本年も亦、和合団結、楽しく吟道に精進され、碩心会発展に協力をお願い致しまして、新年のごあいさつと致します。



賀正・今年もがんばりましょう

（指導者一同）

松井岳洋　根岸岳萃　加藤岳相
三井岳朧　沼田岳雷　小峰岳海
井沢潮岳　加藤圭岳　中村幸岳
竹石憲岳　千葉飆岳　中村愛岳
森田暁岳　岩崎恵岳　鈴木孝岳
守谷崇岳　山口夕岳　松野宝岳
杉山雪岳　秋元梁岳　鈴木萃岳
佐藤湧岳　矢嶋悦岳　黒崎李岳
広瀬翔岳　村田瀞岳　石渡桂岳
沼田義岳　清水耀岳　伊藤峰岳
白井寿岳　白井麗岳　上村象岳
渡辺誠岳　一柳道岳　佐久間爽岳
木村松岳　寺脇宇岳　立沢御岳
小形雄風　宇都宮徳風　千葉美風
松井正風

（名簿順）

今年は未（ひつじ）年

未の字は未来の「み」とか「いまだ」と云うことを意味し、未の年は未完成のものを完成する希望の年である。

未の字がどうして「ひつじ」になったのか疑問がおこる。中国では未を「び」「み」と発音し、それが羊の啼き声に似ているためで、語音上の連想によるものであると解されているが定かではない。（粧研より）

平成三年度・行事予定

（総本部関係）

3・17(日)第99回全国大会…明治神宮会館
4・29(祝)関東地区選抜予選会…パンセホール
7・1(日)岳風忌…諏訪市地蔵寺
7・14(日)第17回選抜大会…明治神宮会館
7・27(土)〜7・28(日)夏期吟道講座…九段会館ホール
10・13(日)第100回全国大会…新高輪プリンスホテル

（神奈川県本部関係）

1・27(日)初吟・初理事会…平塚農業会館
2・10(日)高段者審査会（皆伝）…平塚農業会館
2・17(日)〃（九段以上）…〃
3・10(日)選抜神奈川予選会…平塚農業会館
3・17(日)全国大会参加…明治神宮会館
4・29(祝)関東選抜予選会参加…パンセホール
5・12(日)定時総会…横須賀第一地区
5・26(日)第一地区吟道大会…防大講堂
6・9(日)第二地区吟道大会…（予定）
6・16(日)青少年吟道大会…
8・18(日)指導者吟法講座…
9・8(日)京浜地区吟道大会…
9・15(日)湘南地区吟道大会…
10・6(日)県本部吟道大会…横須賀第二地区
10・13(日)全国大会参加…新高輪プリンスホテル
11・17(日)高段者吟法講座（七八段）…平塚農業会館
11・23(祭)高段者吟法講座（九段以上）…平塚農業会館
11・23(土)納吟会・理事会…京浜地区

（碩心会関係）

1・13(日)初吟会…逗子京急ビーチセンター
3・24(日)春期審査会…逗子図書館ホール
4・13(土)〜4・14(日)吟行会…諏訪地蔵寺墓参他
未定　碩心会温習会
〃　秋期審査会
〃　地区温習会（葉山地区担当）

総伝認許

小峰桜岳先生が平成三年一月一日付を以て総伝認許され左記雅号となられました。おめでとうございます。

総伝・岳海　小峰彦次郎

選抜大会
吟題と詠み方再訂正

昨年12月号に全国選抜者大会の吟題を掲載いたしましたが、その後一部再訂正となりましたのでお知らせいたします。

朗・32…和歌の中、夏月（なつのつき）をよめるは、のをとり（夏月（なつき）をよめる）に

1・42…大楠公転句、名は尽くる無しは、教本元通り（名尽くる無し）に

絵の島

菅茶山作

山陽の諸島列して隣（りん）を成す
佳境（かきょう）各北人（おのおのほくじん）に誇るに堪（たえ）たり
一事唯斯（ただこ）の地に及（およ）び難（がた）し
芙蓉海（ふようかい）を隔（へだ）てて全身を露（あらわ）わす

（通　釈）

瀬戸内海の島々の並び隣り合う好風景は、北の地方の人々に大いに誇るに足るものである。しかし、ただ一つ、この地に及ばないものがある。それは、富士山が海の向こう側にすそ野までくっきりと、その姿をあらわしている、この景である。

（語　釈）

北人…北の方の人。ここでは関東の人。芙蓉（はす）…富士を蓮の花に見たてたもの。

（解　説）

江戸からの帰途、江の島を通りすぎ、正面の海のかなたに高く富士山が聳えている風景に心を動かして詠んだもの。

文化十一年（一八一四）五月六日、67才の菅茶山は、備後の国（広島）から江戸への旅につき、十年振りの江戸で、知人らと旧交を深め、翌年の二月二十六日、帰国の途についた茶山は、二十八日、鎌倉の鶴岡八幡宮や大仏などに詣で、更に七里ケ浜を経て、江の島に遊び、その時作られたもの。

全国選抜者大会
予選会について

昨年、根岸会長の御発意によって、碩心会選抜予選会が催され、更に合格者に対し、講習迄行われたとの事誠に有意義で、出席者の励みにもなって結構と存じます。これを続けることによって、必ずや優秀な選抜者が晴れの舞台に多く立たれるものと期待されます。

私見を申し上げて失礼をお許し下さい。総本部の課題曲の中に、注意書きとして「教本に従う吟と詩の心」と書いてあったと思います。私は、これを重視する必要があると思うのです。教本の譜を仔細に検討しますと、高低、長短、淵深等の他、振仮名にはアクセントが付けてあって吟じ易く、而も詩の心が加味表現されていると思います。従って御指導の先生はこれによって教授され、更に合格者には声量、迫力、詩の心も表現されるよう、各課題曲毎の担当者をきめて模範吟を以て徹底の上、御指導頂ければ成果は益々上り、根岸会長の御趣旨にも副い、碩心会の名声も高くなると考えますが如何でしょうか。

（匿名希望）

練吟メモ

正気の歌

○　元旦初吟　　木村岳風

初夢円かに迎う元旦の天
暁風に颯爽として旭旗翻る
屠蘇一献心身朗かに
吟じ出す新春の正気篇

（原文漢詩）

正月早々、伝記「木村岳風」を開いてすぐ目についたのが右の漢詩。一読、あまりにも明快に正月風景が活写されているのにびっくり。早速字典と照合、平仄（ひょうそく）の配置から七言絶句の偏格で、天・翻・篇は平声1先韻の整った作品であると感銘した。

○結句の「正気篇」に問題があるので、これについてだけ語釈を付けたい。(1)正気は万象の根本たる天地に広がる気。(2)正気篇は、中国では宗末に文天祥が獄中で作った五言古詩。(3)日本では幕末、藤田東潮が「文天祥の正気の歌に和す」と題して作った五言古詩。当時の志士達を鼓舞し、尊皇の気風を養うに力があった。(4)ほかに、吉田松陰、明治に入って海軍軍人の広瀬武夫にも同名の作があることはご承知のとおり。

○これら一連の歌詞の行きつくところは、「滅私奉公」「忠君愛国」「七生報国」、そして先の大戦ではついに「大君の辺にこそ死なめ」となった。平和憲法となって四十年を経過した現在、過去のものとなった「正気歌」を信奉吟詠するのは疑問、という声があるのは否定できない。年配者はそれなりに観念しているが、若い世代には理解を得られそうにないし、今の子供達には入会を勧めるのがはばかられると言う。

○私見を述べさせて頂くと、これら詩文は尊皇精神の高揚を目的としてではなく、日本において見事に正気の発した事例を、歴史の順序を追ってうたいあげたものである。中国における「気」に対する信仰は、日本の「神」に対する以上に絶大である。東湖は、文天祥の「正気歌」に和して（みならって）神州における正大の気をうたったのである。正気の歌は、いずれもその時代の中から、その時代を背景として生れたので、歴史的にも文学的にも価値ある、そして尊い詩文であることに間違いない。

○詩歌の朗詠はまことに結構。時代を反映する好例として、毎年一月、皇室で催される歌会始の用語を参考までに掲げる。

1. お題　歌御会始（うたのおかいはじめ）の「勅題」の言い換え
2. お歌　従来の天皇の「御製（みうた）」、皇后の「御歌（みうた）」、他の皇族の「お歌（うた）」は、同一に「お歌」と称する。

旅の思い出

山口夕岳

暮も押し詰った一日、誘われて天竜峡下りに出掛けました。このところ暖かい日が続いていて、当日も汗をかく程の気温でしたが、朝のうちは雨のため視界が悪く、バスから見る外の景色は、残念ながら霧の中でした。ガイドさんの説明にも気乗りせず、聞き流しておりましたら、たしか中央道を長野に向い、八王子の手前だったように思います。「右手の奥のあたり滝山城のあった所です」という声が耳にとび込んできました。滝山城…途端に大船地区の温習会の折、中村愛岳先生が美しい舞を披露して下さったのを思い出しました。吟も今迄耳にした事のない〝滝山城懐古〟でしたが、その滝山城の話が出てきましたので、すっかり嬉しくなってしまいました。

ガイドさんの名調子が続く中、山梨に入り、武田信玄縁りの地を走り抜け諏訪湖へ。ここでひとつ面白い話がありました。ガイドさんの受売りです。「この先右側よく見てて下さい。小さな川があり承知川と云います。上杉謙信が川中島の戦に出掛ける時、戦に勝ちましたら必ずお社を新しく致しますと諏訪大社に祈願して戦場に向ったのだそうです。ところが川中島の戦は引分けで長い戦いだったので、謙信はすっかりその事を忘れてしまったのだそうです。そしてこの所まで来ると馬が何としても動かず、前に進まなくなりました。謙信はどうしたのかと考えた時、この約束を思い出し、「承知致した」と諏訪大社の方角に向って言ったところ、馬は歩き出したそうです。それ以来この川を〝承知川〟と云うそうです」と。小さな小さな流れの川でした。

楽しい雰囲気の中、私達は一路その日の宿、天竜峡温泉へと向いました。

新雪や赤松の肌粧へる
上弦の月影落とす冬の河
峡下る遊船へ来る冬とんび
冬鵜中州に遊ぶ川下り

。

（滝山城懐古）の詩　愛岳記

〝花に酔い　月に歌いし夢のあと
　　砦さびしき　滝山の城〟
弦月淡々として古城に沈み
虫声切々悲愁に感有り
栄古盛衰は一場の夢
荒城悄然として月朧朧

（滝山城跡）

八王子市と昭島市とを分けるように、標高170米～190米の低い丘陵が南東に突き出していて、この丘陵一帯は、都立の滝山自然公園になっている。

この丘陵上にあるのが滝山城跡で、その北西2Kには高月城跡がある。いずれも中世末期の山城で、滝山城跡は、現在、本丸、二の丸、三の丸跡をとどめ、そのスケールの大きいことでは関東地方でも屈指のものとされている。（八王子駅からバス20分）

（訂　正）

昨年12月号「練吟メモ」上段記事中の「楽府」と振仮名あるは「楽府」が正当。

（指導者の変更）

三井岳朧先生御高齢のため、左記支部の指導を次の先生方が担当されています。

大船B支部…森田暁岳先生
沼間支部……清水耀岳先生

（入　会）

599 葭山玲子　葉山町堀内一七五三
（上　原）電〇四六八ー七五ー三五四七
600 山田ふみ子　葉山町一色一七五〇ー一
（一色A）　エコーハイツ309号

（退　会）

180 森　泰風（堀内・A）　321 武江幸山（上　原）
484 高階孝信（滝の坂）

一月二日、この月報を書き初めました。今年も皆様の御協力をお願い致します。